

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載日
第1章					
1	I 総論—生命とは 側注（関連事項）追加		生体構成成分 生体を構成する元素は生元素とよばれ、重量組成順に酸素（O）、炭素（C）、水素（H）と窒素（N）がその大部分を占める。第4章H「I 生元素」の項を参照。		2022/9/30
2	下から5行目	…脂質二重層とよばれる（図1-2, 3）	…脂質二重層とよばれる（図1-2）		2022/9/30
2	下から3行目	…細胞膜の模式図を図1-4に示す	…細胞膜の模式図を図1-3に示す		2022/9/30
3	図1-3, 4	図1-3 生体膜を構成する脂質 図1-4 細胞膜のモデル：脂質の海に…	図1-3 細胞膜のモデル：脂質の海に… 図1-4 生体膜を構成する脂質	図の順番入れ替え	2022/9/30
4	1行目	ステロールなども含まれる（図1-3）	ステロールなども含まれる（図1-4）		2022/9/30
10	V 細胞骨格 1 アクチンフィラメント全面改稿	1 アクチンフィラメント 分子量4.2万のアクチン単量体（G-アクチン）が多数線維状に 集合 した直径およそ7nmの マイクロフィラメント とよばれる分子（F-アクチン）で、膜の裏打ち構造として 細胞膜直下に網状に広がり、内在性膜タンパク質と連結することで細胞膜に強度を与え、細胞の形態維持を担う。 また、重合・脱重合により フィラメントの長さを変えることで、細胞の変形にもかかわる。	1 アクチンフィラメント（ マイクロフィラメント ） 分子量4.2万のアクチン単量体（G-アクチン）が多数線維状に 重合 した直径およそ7nmの 細長い分子 （F-アクチン）である。F-アクチンはミオシンをはじめ多数のタンパク質と会合して収縮性のある 網目状の構造体を形成し、細胞膜の裏打ち構造として細胞の形態維持や変形能を担う。 また、重合・脱重合により F-アクチンの長さを変えることで、細胞の変形にかかわる。		2022/9/30
10	同 側注（用語解説）追加		ミオシン ミオシンはATPase活性を有するモータータンパク質で、ATPの加水分解エネルギーを用いてアクチン上を移動することにより張力を発生する。筋肉ミオシン（ミオシンII）と分子構造が類似の多数の分子が存在し、ミオシンスーパーファミリーと総称される。サイトスケルトンには、ミオシンIIと異なる分子（非筋ミオシン）が発現する。		2022/9/30
第2章					
22	図2-7 写真左の項目名	炭酸脱水 素 酵素	炭酸脱水酵素		2022/9/30
第4章					
53	図4-B-16 キャプション	ホスファチジルイノシトールは細胞膜の 外側 の脂質二重層（outer leaflet）に…	ホスファチジルイノシトールは細胞膜の脂質二重層の 外側半分 （outer leaflet）に…		2022/9/30
67	図4-C-3		※1参照		2022/9/30
68	図4-C-5		※2参照		2022/9/30
89	3) 脂肪酸の不飽和化と炭素鎖の延長 1～2行目	…ステアリン酸やパルミチン酸の9-10位が…	…ステアリン酸（ C₁₆ ）やパルミチン酸（ C₁₈ ）の9-10位が…		2022/9/30
116	図4-F-13		※3参照		2022/9/30
116	同 キャプション 2行目	…ここで生じた アデニン 、ヒポキサンチン、 グアニン は…	…ここで生じたヒポキサンチンと グアニン は…		2022/9/30

第9章			
238	最終行	解糖系の11のすべての酵素がMg ²⁺ を要求する.	解糖系を構成する11種の酵素すべてがMg ²⁺ を要求する.
			2022/9/30

図表

※1 以下の図への差し替えをお願いいたします(ピルビン酸のCHをCH₃に訂正).

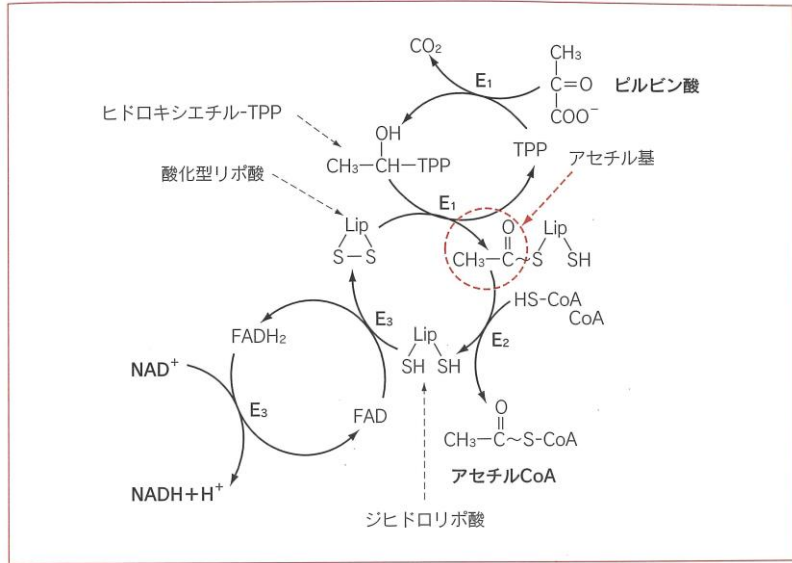


図 4-C-3 ピルビン酸デヒドロゲナーゼの反応機構

※2 以下の図への差し替えをお願いいたします(図の体裁を調整).

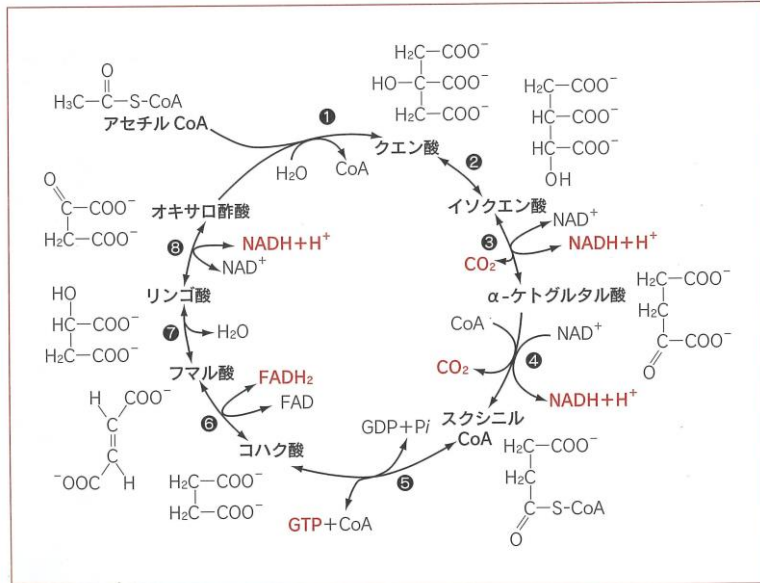


図 4-C-5 クエン酸回路

※3 以下の図への差し替えをお願いいたします(①の左, アデニンをアデノシンに訂正).

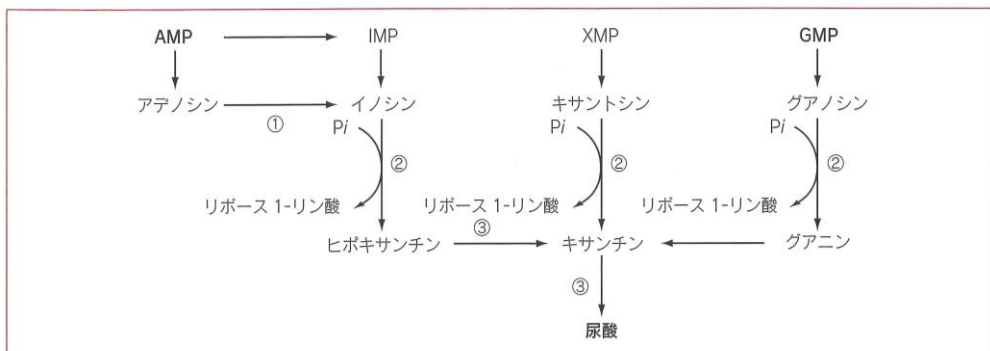


図 4-F-13 プリンヌクレオチドの分解経路